

ワーカーズ

http://www.workers-net.net/
mail workersnet@workers-net.net

毎月1日発行 1部150円 半年1000円(郵送)
PDF判 年1200円
郵便振替 00180-4-169433 (ワーカーズ社)

2022/11/1 636号



今号の内容

- ・『安保三文書』の改訂「止めよう! 戦争国家への道」・「専守防衛」から先制攻撃へ――②④④
- ・読書室 鈴木エイト氏著『自民党の統一教会汚染 追跡3000日』④⑤⑤
- ・古代ゲノム分析の切り開く世界⑤⑥⑥
- ・「エイジの読書室」第3回★「誰が永山則夫を殺したのか」死刑執行命令書の真実」(下)⑥⑦⑦
- ・何でも紹介・・・表現の不自由展と平和の少女像⑦⑧⑧
- ・原発の危険性と、自然エネルギーの先進性&問題点を考える映画二つを観る⑨⑨⑨
- ・(入院体験記)チーム医療に支えられて⑩⑩⑩
- ・ひろゆきさんによる辺野古新基地建設反対の盛り込み行動への冷淡な態度とでも許さない!⑩⑪⑪
- ・コラムの窓・・・⑪⑪⑪
- ・川柳 作 石井良司⑫⑫⑫
- ・色鉛筆・・・⑫⑫⑫

国家による国民監視手段「マイナンバー」制度は許さない

医療サービスを人質にした無法な押し付けに反対しよう

国はいま、健康保険証とマイナンバー制度を結び付けるやり方、つまり医療サービスを人質にする卑劣なやり方で、マイナンバー制度の普及を一挙に進めようとしている。

保護法・条例違反に違反した共済組合情報を利用。公務員採用時にカード取得を条件とするという公然たる就職差別。消費税増税強行の不満を和らげる目的で導入された自治体ポイント制度をカード取得の推進策としての流用する等々、様々な違法手段を濫用してきている。それでもカード取得が進まないこのようにも聞こえる。

とに業を煮やして、今回は医療の人質作戦に打って出た。マイナンバー制度は、国が、国民の個人情報を集積、紐付け、利用、一括管理しようとするものだ。一見すると、国民の利便性を高める手段によるにも聞こえ、また行政の効率化や経済活性化の万能薬、魔法の杖であるか

ば消費税はどうか。国は「もともと公平な税」「社会保障や福祉のため」と言うが、実際にはその正反対の税制として機能している。そもそも国の再分配政策自体が、むしろ経済的弱者から経済的強者への再分配、つまり逆再分配になっているのが実態だ。

国家による情報管理にあつては尚更そう言える。個人情報、集積、紐付け、一括管理されることの危うさは、現実には発生した様々な情報漏洩、不正取得、悪用の事例を見れば明らかだ。そのなかには巨大プラットフォームであるGAFAGAFが発生源になったものもある。ゲイブルが引き起こした事故では、日本の6つの中央省庁の持つ情報が危険にさらされた。そのうち、厚生労働省が関係した危険は、医療機関や介護施設の患者の個人情報に外部からアクセスが可能になっていたというひどいものだった。

しかし、当たり前のことだが、国家が常に国民の味方というわけではない。国の政策が国民の利益に反した方向に向かうなら、この、情報の過度な集中、集積、紐付け、その利用や一括管理は、甚大な災厄、劇薬に転化する。

実際、国の政策が持つ意味、その影響は、国民の各層によって異なり、場合によっては正反対となる。例えば



河野太郎デジタル大臣が、現行の健康保険証を原則廃止し、2024年にマイナンバーカードと一体化することを正式に発表した



労働者は、国家による国民監視の手段に容易に転化するマイナンバー制度に反対する。マイナンバー法さえ無視した無法な普及促進策に断固として抗議する。

(阿部治正)

止めよう！戦争国家への道

「専守防衛」から先制攻撃へ

岸田政権はこの年末までに「安保三文書」を改訂するとし、作業を急いでいる。

この改訂のポイントの一つになっている、いわゆる「敵基地反撃（攻撃）能力」の保有は、これまで建前として掲げてきた《専守防衛》という枠を突破して、先制攻撃や全面戦争を招く極めて危険なものだ。

軍事合理主義で邁進する岸田政権の暴走をストップさせた。

◆背景

「安保三文書」とは、安倍元政権が初めて策定した国家安全保障戦略、それに防衛計画の大綱、中期防衛力整備計画のことだ。

「安保戦略」は、2013年に安倍政権が米国の国家安全保障戦略をまねて初めて策定したもので、いわば日本としての10年間程度の外交・軍事政策の基本戦略だ。「大綱」は、その軍事力

のあり方と水準を定めるもの、「中期防」は、5年間の経費総額と主要装備の数量を定めたものだ。いはばこの三文書を元に、

年々の防衛計画や兵器等を整備していく、というものだ。

政府が改訂作業を急ぐ根拠としているのは、近年の日本を取り巻く安全保障環境の変化、要するに中国の軍事的大国化と拡張主義、北朝鮮のミサイル発射や核実験などの挑発行為、さらには今年度のロシアによるウクライナ侵攻など、日本を取り巻く軍事的圧迫が強まっていることを根拠としている。

日本の「安保三文書」の改訂も、米国との同一歩調が基本になっている。

国家安全保障戦略(NSS) (平成25年12月策定)
基本理念 国際協調主義に基づく積極的平和主義
↓踏まえて策定
防衛計画の大綱(30年12月策定)
基本的考え方 「多次元統合防衛力」の構築
↓水準達成のための整備数
中期防衛力整備計画(30年12月策定)
5年間に計約27兆4700億円を投入

米国のバイデン政権は、政権発足以降、対中封じ込めに力を入れてきた。

この10月12日に公表した国家安全保障戦略では、中国を「国際秩序を塗り替える意図と能力を持つ唯一の競争相手」とし、またロシアについては「自由で開かれた国際システムへの差し迫った脅威だ」「中国に打ち勝ち、ロシアを抑制する」としている。

日本の「安保三文書」の改訂も、米国との同一歩調が基本になっている。

◆先行する攻撃部隊の配備

日米による現実の対中封じ込め態勢づくりも進んでいる。昨年4月の日米首脳会談では、52年ぶりに「台湾海峡の平和と安定の重要性」に言及した共同声明を出した。つづいて今年1月には日米の外務・防衛閣僚による「2プラス2」が開かれ、台湾有事を想定した「日米共同計画作業についての確固とした進展」を確認しあつたと報じられた。

日米による現実の対中封じ込め態勢づくりも進んでいる。昨年4月の日米首脳会談では、52年ぶりに「台湾海峡の平和と安定の重要性」に言及した共同声明を出した。つづいて今年1月には日米の外務・防衛閣僚による「2プラス2」が開かれ、台湾有事を想定した「日米共同計画作業についての確固とした進展」を確認しあつたと報じられた。

う大規模な報復攻撃で殲滅する、という含意もある。「専守防衛」からのミサイル発射、居場所が分からない潜水艦から発射するSLBM、低空で変則軌道を滑空してくるミサイル、それに音速の5〜10倍の速度で迫る極超音速ミサイルなどであり、またサイバー攻撃も絡んでくる。

その撃ち落とせないミサイルに核弾頭が積み込まれていけば、日本の都市も壊滅状態になり、あるいは原発が攻撃対象になれば、これも同じく壊滅的な打撃になり得る。そうした脅威を抑止するには、相手国のミサイル基地や発射を指示する指揮統制機能も攻撃する必要がある（「提言」）ということになる。

しかしそんなことがほんとに可能なのか。潜水艦は探知が難しいし、移動式発射台は、10分か20分もあれば10キロは移動できる。それをリアルタイムで補足し、それぞれを自国のミサイルで破壊することが可能だとはとても思えない。偵察衛星や早期警戒衛星でも追い切れない。多数の情報員・スパイがリアルタイムでミサイル発射台を追跡しても、発射地点の正確な予測などは困難だ。

敵基地攻撃能力の保有とは、映画やゲームの世界のようなそ

さらにこの9月下旬にはハワイの太平洋軍司令部で部隊運用、共同作戦計画、宇宙・サイバー・電磁波など担当する日米の制服組幹部たちが集まり、2日にわたって協議を重ねたという（10・16朝日）。主要テーマは「尖閣と台湾」だったというから、かなり突っ込んだ作戦計画が話し合われたと考えられる。水面下ではもっと進んでいるのだ。

日本政府としては、これまで尖閣諸島危機での米国の支援を期待していたが、今では逆に中国による台湾への武力侵攻、いわゆる台湾危機では、日本が中台・米中戦争の最前線に引き込まれること必定という事態になっている。

現に、沖縄では前線基地化が進んでいる。九州各地の基地はもとより、奄美大島から始まって沖縄本島、宮古島、石垣島、それに台湾に最も近い与那国島にまで、急速にミサイル部隊や通信・情報部隊を配備している。

従来、日本は専守防衛の立場から攻撃用の兵器は持たないという立場を掲げてきたが、実際は敵国を攻撃できる装備や兵器を着実に保有してきた。その手段となる空母、長距離爆撃機、長距離弾道ミサイルは保有しないとできなかったが、すでに護衛艦「いずも」などは、短距離離陸や垂直着陸が可能なF35を搭載する空母に改修されている。空自のF35は搭載ミサイルを長射程化して敵国を攻撃できる。大型の長距離爆撃機はないが、弾道ミサイル技術はイプシロンロケットなどですでに確保している。

加えていま進めているのが、敵国ミサイルの射程外から攻撃できる、いわゆるスタンド・オフ・ミサイルの開発・量産だ。陸自が持つ12式地对艦ミサイルなどだ。現在は射程距離は200キロ程度だが、1000キロに

器は持たないという立場を掲げてきたが、実際は敵国を攻撃できる装備や兵器を着実に保有してきた。その手段となる空母、長距離爆撃機、長距離弾道ミサイルは保有しないとできなかったが、すでに護衛艦「いずも」などは、短距離離陸や垂直着陸が可能なF35を搭載する空母に改修されている。空自のF35は搭載ミサイルを長射程化して敵国を攻撃できる。大型の長距離爆撃機はないが、弾道ミサイル技術はイプシロンロケットなどですでに確保している。

加えていま進めているのが、敵国ミサイルの射程外から攻撃できる、いわゆるスタンド・オフ・ミサイルの開発・量産だ。陸自が持つ12式地对艦ミサイルなどだ。現在は射程距離は200キロ程度だが、1000キロに

相手国の攻撃力を瞬殺、殲滅する能力を保有するというものだ。そんなことはおよそ不可能で、結局は相手国の攻撃も防ぎきれず、結果的に敵味方両国の相互破壊に行き着かざるを得ない代物なのだ。

敵基地攻撃能力の保有については、相手国の攻撃の「着手」も問題になっている。敵基地攻撃能力が、相手国が現に日本を攻撃しているという事実には、攻撃してはならないと判断すれば、攻撃できる、というものだからだ。どの段階で着手したと認めるのか、ミサイルに燃料を注入し始めたときか、移動式発射台が動き始めたときか、あるいは軍の動きが活発化した時点か。その評価や判断が問題になる。一歩判断を間違えれば、国連憲章違反の先制攻撃になってしまう。

相手国の攻撃力を瞬殺、殲滅する能力を保有するというものだ。そんなことはおよそ不可能で、結局は相手国の攻撃も防ぎきれず、結果的に敵味方両国の相互破壊に行き着かざるを得ない代物なのだ。

敵基地攻撃能力の保有については、相手国の攻撃の「着手」も問題になっている。敵基地攻撃能力が、相手国が現に日本を攻撃しているという事実には、攻撃してはならないと判断すれば、攻撃できる、というものだからだ。どの段階で着手したと認めるのか、ミサイルに燃料を注入し始めたときか、移動式発射台が動き始めたときか、あるいは軍の動きが活発化した時点か。その評価や判断が問題になる。一歩判断を間違えれば、国連憲章違反の先制攻撃になってしまう。

これは日本戦略研究フォーラムが主催するもので、自民党国防族の小野寺五典衆議院議員、旧民主党右派で自民党に鞍替えしたタカ派の細野豪志議員、それに元自衛隊幹部などが参加して行われている台湾海峡危機を想定した軍事シミュレーションだ。危機発生時に日本の指揮系統をどうすべきか、態勢整備にどうつなげるかなどの図上訓練

敵基地攻撃能力の保有や防衛費の増額問題では、自民党国防族など強硬派と財務省などの綱引きも垣間見える。岸田政権自体の逡巡も見て取れる。

◆「国策」への動員

敵基地攻撃能力の保有や防衛費の増額問題では、自民党国防族など強硬派と財務省などの綱引きも垣間見える。岸田政権自体の逡巡も見て取れる。

しかし安保三文書が改訂されれば、「脅威」と「抑止力」が明記され、戦争遂

まで伸ばすという。さらにはその改良型だと称して、2000キロの射程を持つ新型中距離ミサイルの開発を進め、艦艇や航空機からも発射できるようにするという。そうならば、九州や南西諸島の陸上からだけでなく、東シナ海やその空域から中国各地の広範な内陸地まで射程圏内に入る長距離攻撃ミサイルを保有することになる。

そのほか、高速滑空弾や変則軌道の極超音速ミサイルなどの研究・実用化も進められている。

岸田政権が年末までに改訂するとしている三文書で、何を改訂しようとしているのか。まず中国やロシアという近隣の大国に対する評価だ。

これまでの「戦略」では、安全保障の根幹は日米同盟の実効性を高めることが基本。中国に対しては「戦略的互惠関係」の構築で、安保では「国際社会の懸念事項」、経済では「協力強化」だった。ロシアとは北方領土返還交渉の思惑もあって「あらゆる分野で協力を進める」と

行国家の姿勢が明確になり、また軍事費の増額も行われるだろう。現に、この両方で岸田首相はすでに対米公約にしている。

いくら綱引きが行われていようと、向かう方向は明らかに日本の軍事大国化と戦争国家化だ。それを象徴する動きもある。軍事強硬派が実施している台湾有事を想定した軍事シミュレーションの茶番劇だ。

これは日本戦略研究フォーラムが主催するもので、自民党国防族の小野寺五典衆議院議員、旧民主党右派で自民党に鞍替えしたタカ派の細野豪志議員、それに元自衛隊幹部などが参加して行われている台湾海峡危機を想定した軍事シミュレーションだ。危機発生時に日本の指揮系統をどうすべきか、態勢整備にどうつなげるかなどの図上訓練

これは日本戦略研究フォーラムが主催するもので、自民党国防族の小野寺五典衆議院議員、旧民主党右派で自民党に鞍替えしたタカ派の細野豪志議員、それに元自衛隊幹部などが参加して行われている台湾海峡危機を想定した軍事シミュレーションだ。危機発生時に日本の指揮系統をどうすべきか、態勢整備にどうつなげるかなどの図上訓練

これは日本戦略研究フォーラムが主催するもので、自民党国防族の小野寺五典衆議院議員、旧民主党右派で自民党に鞍替えしたタカ派の細野豪志議員、それに元自衛隊幹部などが参加して行われている台湾海峡危機を想定した軍事シミュレーションだ。危機発生時に日本の指揮系統をどうすべきか、態勢整備にどうつなげるかなどの図上訓練

これは日本戦略研究フォーラムが主催するもので、自民党国防族の小野寺五典衆議院議員、旧民主党右派で自民党に鞍替えしたタカ派の細野豪志議員、それに元自衛隊幹部などが参加して行われている台湾海峡危機を想定した軍事シミュレーションだ。危機発生時に日本の指揮系統をどうすべきか、態勢整備にどうつなげるかなどの図上訓練



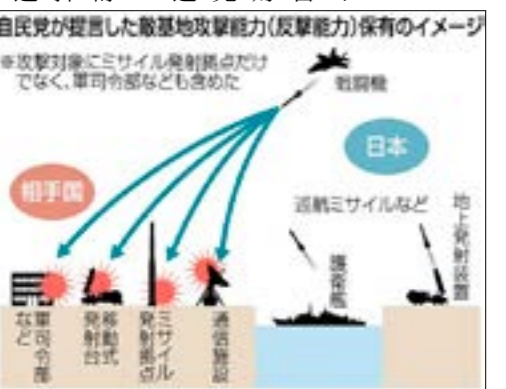
「国力としての防衛力を総合的に考える有識者会議」の初会合であいさつする岸田首相



これは日本戦略研究フォーラムが主催するもので、自民党国防族の小野寺五典衆議院議員、旧民主党右派で自民党に鞍替えしたタカ派の細野豪志議員、それに元自衛隊幹部などが参加して行われている台湾海峡危機を想定した軍事シミュレーションだ。危機発生時に日本の指揮系統をどうすべきか、態勢整備にどうつなげるかなどの図上訓練

これは日本戦略研究フォーラムが主催するもので、自民党国防族の小野寺五典衆議院議員、旧民主党右派で自民党に鞍替えしたタカ派の細野豪志議員、それに元自衛隊幹部などが参加して行われている台湾海峡危機を想定した軍事シミュレーションだ。危機発生時に日本の指揮系統をどうすべきか、態勢整備にどうつなげるかなどの図上訓練

これは日本戦略研究フォーラムが主催するもので、自民党国防族の小野寺五典衆議院議員、旧民主党右派で自民党に鞍替えしたタカ派の細野豪志議員、それに元自衛隊幹部などが参加して行われている台湾海峡危機を想定した軍事シミュレーションだ。危機発生時に日本の指揮系統をどうすべきか、態勢整備にどうつなげるかなどの図上訓練



鈴木エイト氏著小学館NONO年10月刊

○この本は2002年、統一教会がその正体と本来の目的を隠した偽装勧誘（偽装伝道）現場に遭遇したことをきっかけに、街頭での偽装勧誘等の活動実態を長年にわたり追ってきた鈴木エイト氏の執念が結実させたものである。安倍統弊事件により突如浮上した統一教会と自民党との癒着は、一朝一夕に出来たものではなく、その実態をここまで赤裸々に明らかにした本はこれまでになかった。

本書は、ウェブメディアのハーバー・ビジネス・オンライン／HBO L（扶桑社）で連載した『政界宗教汚染／安倍政権と問題教団の歪な関係』を軸として、鈴木氏が副筆の『やや日刊カルト新聞』等に寄稿した記事を集めた、加筆したものである。そのため、2011年からは、鈴木エイト氏は、教団広報部により「要注意人物」として、指

名手配を受け、顔写真入りの手配書が全国の教団系施設に張り出されることになってしまった。この年、統一教会の従順な青年信者が選挙運動員として地方議員に徹底的に利用されてきた実態を知り、政治家側の問題点を詳細に報じたことをきっかけとして、それまでの問題意識がそれでは一体同教団と国政政治

家との関係がどのようなものかかと発展して行き、安倍政権下の2013年の参議院選挙時の首相官邸と統一教会の裏取引を示す内部文書を手に入れたことから、統一教会に対する鈴木氏の本格的な追及が始まったのである。

それは、安倍晋三氏の祖父・岸信介が東條英機に内務大臣を鹹首され、山口県の田布施へ戻った際、地元の天照皇大神宮の教祖・北村サヨは岸が将来総理大臣になると予言したと言われ、不遇の時に大変お世話になったことを受け、その恩人の孫・北村経夫に対する「安倍晋三首相じきじき」の支援依頼を受けたとする教団内部通達FAXであった。

この事実確認のための鈴木氏の質問に対して安倍事務所は無回答。しかし政権ナンバー2の



読書室

(廣)

私はむしろ「大衆をもって官（＝国）を規制せよ」と言いたい。「労働者・市民の声や力で対立をエスカレートさせる双方の政府を抑える」という意味合いだ。国境を越えた労働者・市民の連帯の結びつきを太くし、軍事整合性にもとずく敵基地攻撃能力の保有や相互殲滅戦争への暴走と闘っていききたい。



かつて日本と中国をはじめとするアジアの労働者の連帯を拡大する貴重な取り組みが存在した。その一例を挙げる。90年から20年間活動したアジア太平洋労働者連帯会議（APWS）だ。私としてはかつてからその取り組みに期待と連帯感を覚えていた。現在はそうした交流の試みは全国組織としては活動を停止しているようだが、そういう交流がもっと大きく広がれば、お互いどうし攻撃し合うなどとは思わないはずだ。

日中国交回復50年の今、周恩来元首相による「以民促官・以地方促中央」民をもつて官を促し、地方をもつて中央を促す」という言葉に光が当てられている。意味合いは、両国関係を政府間関係だけに任せず、民間交流で政府間関係を正せ、ということか。

◆止めよう！ 戦争国家への道

のようなものだ。相手の脅威や攻撃にどう対処するか、という前提でやれば、軍事を軍事で対抗する、という以外にない。そうした発想と対処策ばかり考えていけば、まさに戦争ゲーム、戦争をいかに勝つかという話にならざるを得ない。要するに軍事整合性、軍事優先主義だ。このシミュレーションは、国民にそうした発想と覚悟を並び、国策に動員したいとの思惑から実施されているわけで、その試み自体が好戦派の露骨な意図を示している。

いかに脅威が高まっているか、それをいかに抑止しているか、防衛だけではなく、反撃能力、攻撃能力をいかに高めるか、という軍事合理主義の土俵自体を縮小させなければならぬ。軍事合理性の一番の欠点は、相手の存在を無視していることだ。こちらがやろうとしていることは、相手国にも当てはまる。当たり前のことだ。相手が脅威だからそれに備える、ということは、相手国にも言える。要す

菅義偉内閣官房長官は、参議院選挙期間中、北村候補への統一教会地区教会に対して極秘派遣を要請した。この時自民党全体で教団の派遣者数は三千人。まさに論より証拠。

北村候補は14万余票で当選した。実に彼の当選は統一教会8万票のたまものである。ではこのような統一教会と自民党との癒着はどのようにして出来上がったのであろうか。

1954年に韓国で文鮮明が結成した統一教会は、58年6月には崔春春（通称名西川勝）が密航し、日本に信仰を伝えた。崔には立正佼成会が協力し、久保木修己ら約50名の青年信者が転向する。そして59年には日本統一教会が岸信介の後ろ盾で設立され、64年7月、統一教会は宗教法人の認可を受けた。

初代会長になったのは元立正佼成会の青年信者だった久保木修己であった。その背景には反共の笹川や岸の力があつたのである。そして同年、原理研究会が設立され、全国の大学で公然と学生伝道を開始した。元公安調査庁幹部の菅沼光弘は、初期の統一教会に入会した人の多くは民

過激な性教育・ジェンダーフリー教育実態調査プロジェクトの座長だった安倍晋三は、同

の68年4月、文鮮明が笹川・岸らの協力をえて反共産主義政治団体・国際勝共連合を日本に設立し、こうして統一教会の伝道と原理運動は本格化していく。では安倍晋三との関係はどうだったか。

2006年6月、有田芳生氏は安倍晋三と統一教会問題で会話を交わしたことがあり、安倍晋三が「統一教会がさかんに接触し、面会を求めてくる」が「わたしは会わないですよ」と発言したとの証言を本書では紹介している。ではこの7年の内に何があつたのか。

オウム真理教問題で一躍有名になり国会議員になった有田芳生氏は、それまでは知人ぞ知る統一教会問題の研究者であつた。今回の参議院選挙で落選した有田氏は、統一教会が落選運動を仕掛ける対象者であり、その呼びかけ文は「有田退治文書」と呼ばれていた。この文書の中に「山谷先生、安倍先生なくして」有田退治は「成就できない」との文言がある。山谷先生とは、統一教会との関係を否定し続ける鉄面皮のあの山谷えり子である。

2005年に発足した自民党過激な性教育・ジェンダーフリー教育実態調査プロジェクトの座長だった安倍晋三は、同

年5月に自民党過激な性教育・ジェンダーフリー教育を考えるシンポジウムを開催したが、責任者と司会進行は萩生田光一が努め、安倍と山谷がパネタリストとして登壇していた。まさに統一教会三人衆の揃い踏みではないか。

またこの頃、靈感商法摘発で統一教会ガサ入れ危機をかわろうじて回避できたのは、山谷国家公安委員長長の尽力のたまものである。まさに安倍内閣が統一教会を延命させたのだ。

こうした事実から判断できることは安倍が内閣を組閣する際、統一教会との共闘を決断したと言うことである。本書でも、第五章「全国弁連の申し入れにも聞く耳持たぬ自民党」、第八章「2019参院選で暗躍する教団」、第九章「第4次安倍内閣は『統一教会系内閣』」第十章「自民党最大派閥会長（細田博之）が教団サミットで講演」、第十二章「『桜を見る会』に統一教会関係者」の各章で統一教会と安倍内閣との癒着が暴露されている。

かくして安倍晋三は統一教会の公然たる広告塔を引き受けるまでになり、それが理由で統一教会に家族崩壊させられた山上容疑者に殺意を持たれるまでになったのである。

そして特記すべき事はこの統一教会との癒着が菅・岸田政権へ継承されたことである。今マスコミは山際大臣の日々の瀬戸際対応を報道している。まずは彼を確実に仕留め、次に疑惑の大臣追及をしてゆかなければならない。しかしながら本書の付録にあるように、国会議員の168人が統一教会やそのフロント組織と何らかの接点があつたのである。

立憲民主党のあの辻元清美議員もフロント組織と関わったことがあつたのだという。まさに統一教会の政治工作は深く浸透し、展開されている事を忘れてはならないだろう。岸田総理は関係なくとも彼の派閥は統一教会汚染の只中にある。昔ははなから論外である。

なお本書では、第七章「顕在化する総裁・韓鶴子の反日思想」において、韓鶴子が広島に原爆が落ちたことを引き合いにして日本へ悔い改めを迫り、日本の幹部に対し「国家復帰」のため日本の最高指導者を屈服させ教育する指令を出していたことを暴露している。統一教会を日本の国教とする（「国家復帰」）には、天皇や総理大臣を自分の足下にひざまずかせるとの韓鶴子の強烈な反日思想が今後大きな隘路となることは間違いない。

また韓鶴子が教団名を「天の父母様教団」に変更するとしたものの、封印したことや文鮮明死去後の統一教会の分裂に関する記述があるが、紙面の関係で残念ながら割愛する。だがそれらは統一教会問題を

深く追究するには、大変重要な知識であることは間違いないことである。その意味でも本書の一読をぜひ勧めたい。（直木）

袁代ゲム分析の切り開く世界

■ペーボさんノーベル賞おめでとつ

スヴァンテ・ペーボはネアンデルタール人とデニソア人のゲノムの解析および、彼らが人類と交雑していることを突き止めた。著書『ネアンデルタール人は私たちと交配した』は数年前に図書館から借りて読んだ。バリバリ先端科学の本かというところでもなく、むしろ記憶に残ったのは一科学者が体験した人間ドラマ、ということ。バイセクシャルのペーボは「彼氏」や「彼女」のことを時折何のてらいもなくさらりと触れる。さらに科学者としての頂点をめぐる激しい競争のこと、功名をめぐる焦りや苦悩も赤裸々に描いている、むしろそこが印象に残った。

ホモサピエンスの出アフリカの時点で中東付近に当時生存在したネアンデルタール人。人類は彼らと交雑してユーラシアの世界に広がった。そればかりでは

ネアンデルタール人は私たちが交配した

スヴァンテ・ペーボ著 野中晋方訳

なくアジア中心に生存していたのがデニソア人。アジア系の人類は彼らとも交雑した。つまりアジア人はネアンデルタール人とデニソア人の遺伝子を持つ人が多い。しかし、旧人Ⅱ「野蠻な遺伝子」ではない。すでに人類に先行した北方適応種であるネアンデルタール人の遺伝子は、人類の急速な北方進出にプラスになったと考えられる(マイナス面も指摘される)。

■デイビッド・ライクも忘れない

ライクはマックス・プランク進化人類学研究所の、上記ペーボのもとで、ネアンデルタール人とデニソワ人のゲノムプロジェクトの中心的役割を担った。その後古代DNAの研究をハーヴァード大学で開始、次々と古代ゲノムの解析を進めた。人種

の交雑を専門に研究し、その拡散ルートを解明した。その成果が『交雑する人類』古代DNAが解き明かす新サビエンス史』だ。人類の歴史を深く読み込むには欠かせない資料です。私は本をめったに購入しないが『交雑する人類』は購入。文化文明の盛衰や歴史の展開を深く知るための欠かせない資料となる。人々、つまり具体的には部族であったり民族であったりと

部の地域で「権力」が現れ多様な血族を統合・支配する歴史に移行する。ゲノム研究は古来の歴史書や伝承を裏付けたり補充したり、また廃棄することもある。

ペーボの研究は先駆であったが、ライクの研究は幅広く言語学、民俗学、文化史、部族の拡大や国家形成の研究などに影響を与えています。

彼は同時に、全世界の遺伝子情報を集めることの困難さを随所で訴える。たとえば、アメリカ・インディアンは、全体的に非協力的であり、その理由は何らかの言いがかり(お前たちも所詮「先住民ではない」とか)をつけられ、再び追放されるのではないかと恐れていると思われる。迫害の歴史がこのような現状を作り出したのだ。

■インディアンを想う

ペーボやライクが開発して来たゲノム解析による全人類の系統図とその地理的拡散のストーリー。例えばライクは「ほとんどのアメリカ・インディアンは、北東アジアのさほど大きくない集団に起源をもつ」という。この小集団からかなりの期間を隔てつつ断続的に「出アジア」↓アメリカを目指したようだ。

私が参加している読書会テキスト『一年の旅路』ネイティブアメリカンの口承史』とは北東アジアの海沿いにあった「なかつち」の「一族」がベリリング陸橋を踏破し最期はオントリオ湖南岸に至る遠大な口承史。このストーリーを私は思い浮かべます、同一のものかなど。ライクによれば、彼らインディ



プが巻かれ、がちりと締められた金具が後頭部に当てられた。床が落とされたのは10時を回っていた。延々1時間にわたって格闘がなされていたことになる。永山則夫の遺体は証拠隠滅のために焼却された。とても火葬と言えるものではない。事前の会議で、残酷な死刑執行と死刑確定後の処遇。とりわけ懲役受刑者と同じ外部交通(面会と手紙)の制限をかけた事実を隠蔽するための策が練られた。」と指摘している。

会的弱者だった元少年事件被告人・永山則夫死刑囚によってたかたか苛めを加えていたのだ。」「永山は死刑が確定した瞬間から外部交通の制限を加えられた。身元引受人が辞退してからの2年間、外部との糸がぶつんと切れてしまった。」「サカキバラ事件という機会を得た国家権力は永山を処刑した。一方で永山処刑の機会となった少年Aは社会復帰した。」

坂本氏は最後の『あとがき』のところで次のように述べている。

執筆者の坂本敏夫氏は、『これが国家権力だ!かつて刑務官だった私は君に謝る』の所で次のように述べている。「私が死刑確定後の永山則夫の処遇を知ったのは、本章の執筆のために収集した資料を見たときだ。それは、何の根拠もない永山則夫だけにターゲットをしぼった差別処遇だったのだ。永山は有名であり、外部では有識者や著名人が興味を示しており、交流を持つことも可能だった。それを恐れたのか、死刑判決が確定してからは懲役受刑者並の外部交通に関する制限を加えられていた。いやそれ以上かもしれない。」「法務省と最高検のお

悔い改めた死刑囚を殺してはならないと主権者である国民の皆様に訴えたかったからだ。改めて申し上げたい。どの死刑囚、どの懲役受刑者よりも悔い改め、サカキバラ事件が起こったことで、自分の命もあと僅かかもしれないと、覚悟した永山。彼は印税をペルーの子どもたちの奨学金にするため、寝る時間を執筆にあてたいと願ひ出て執筆に励んだ。永山則夫は死にたくなかつた。ペルーの貧しい子どもたちのために。永山則夫の死刑執行はこの国の恥辱である。返す返すも、残念で仕方がない。民主権国家において、死刑は他人事ではない。法律を作る国会議員を選んでいるのは、

アンのアジアの源流は古代北ユーラシア人(バイカル地方のマリタ遺跡など)が東方進出し、他方ではインドの狩猟採集民が

「誰が永山則夫を殺したのか/死刑執行命令書の真実」(下) 著者・坂本敏夫 (約25万字/文庫2014年7月5日初版発行)

ワンカーズ634号で述べたように、1997年の「サカキバラ事件」を契機として検察は永山則夫の死刑執行に激しい意欲を燃やすのである。

死刑の当日の様子は読むのがつらくなるほど酷いものである。

坂本さんの本から引用すると。

「8月1日午前8

北上し、揚子江や黄河流域に足跡を残しつつ北東アジアの地域に進出しそこで北ユーラシア人も興味深いところだ。

民だという。このように歴史や伝承との関連の検討がとて興味深いところだ。(阿部文明)

時55分に刑務官が迎えに来る。その時は、『永山、面会だ。出房準備』と声を掛けられた。4日前に、5年ぶりに支援者の女性に面会に来てくれた。また再度面会に来てくれたと思ひ『面会』の言葉に不審を抱かなかつた。出入り口の扉が開き、永山の姿は舎房廊下から消えた。それから何秒かして怒号が響き渡り舎房が揺れた。永山が廊下に

出たから多数の刑務官に取り囲まれ、自分の置かれている立場を理解した。<処刑の日だ>永山は渾身の力で暴れた。腕をねじ上げられても怯まず暴れた。骨が折れても暴れる。床に転がされた永山に容赦ない制圧という名の暴行が加えられる。気を失いかけるが痛みによって奮い立つ。刑務官たちはあまりにもタフでしぶとく、泣きを入れない永山に恐れをなした。永山は薬品を嗅がされたのか徐々に声が出なくなり、気も遠くなつていく。

「エイジの読書室」第3回



死刑場に運び込まれた永山は見るも無惨だった。顔は原形を留めないほど歪み、Tシャツは破れて血に染まり、半ズボンにはひざちぎられ全身に擦り傷と打撲瘡があり手足は内出血で青黒く変色していた。意識のない永山は支えられて刑壇の上に運ばれ、手錠が掛けられ、首にロー

我々である。私たち1人1人が死刑によって人を殺しているという自覚を持つべきなのだ。」

「命と正面から向き合うことでどんな悪党でも更生する可能性がある。これは、実際に死刑囚と向き合ってきた私の確認でもある。獄中で無知の涙を著した永山則夫。彼が被告人だった頃に言葉を交わした元刑務官が、刑場の公開や裁判員裁判で関心が高まる今、永山の死刑執行に隠された残酷な事実を曝し、改めて死刑制度の是非を問う。」

★「私のあとがき」

坂本敏夫さんの話を聞きその後この本を読んで、改めて最近の「死刑執行」の事を考えてみた。

ここ数年、生きている意味が見いだせず死にたいと考え、大きな事件を起こすことが増えている。そんな中、「秋葉原事件」(2008年6月、車を暴走させて7人を殺害し、14人に障害を負わせた)を起こした東京拘置所在監の加藤智大が、今年の7月26日に死刑執行された。死刑確定順で108人中86番目、順位の新しい確定者だ。調べて知ったことだが、この加藤智大は2015年2月に死刑判決を受けているが、その

何でも紹介



主催者は支援者を募り、何ヶ月もの準備を行い、会場内での



表現の不自由展と平和の少女像

神戸で開催された表現の不自由展!

9月10日・11日に兵庫県民会館で開催された展示会、会場は不公表で完全予約制という厳しい条件があるなかでようやく入場が実現しました。県民会館は他の催しをすべて取り止めた。心が慄きます。

会場に入ったところに反軍・反帝・反戦の旗(前山忠・1971年)が展示されていて、うれしく懐かしくなりました。平和の少女像(キム・ウンソン、キム・ソギョン・2011年)

2015年から彼は毎年、「死刑囚表現展」に文章やイラストなどの作品を出展しており、その作品が素晴らしく話題にもなっていたとの事。特に、この「死刑囚表現展」は、毎年10月10日の世界死刑廃止デーにあわせて、今年も10月14日(金)〜16日(日)に松本治一郎会館で開催された。

トラブルを避けるための万全の態勢を組み、760名の方が訪れ、無事に2日間の展示会をやり遂げました。私は予約を取り見学しただけで、その努力にただ頭を下がるばかりでした。それにしても、これほどに細心の準備を行わなければならないこの国の現状は何なのでしょう。心が慄きます。

大浦信行氏の「遠近を抱えて」はヒロヒトが登場するというところで反発が多いのですが、動画作品(2019年)の表現は、教育勅語による(国のため・天皇のために死ぬことが貴いという)教育が多くを若者を無慈悲

では、尻込みをする方もありましたが、貴重な経験をされた方が多かったのではないのでしょうか。私は座る勇気がなかった中で、妻が隣の席に座ったところを撮りました。

に死なせた責任を問うものであり、過去の歴史を忘れないための重要な内容でした。大浦氏の「遠近を抱えて」は1986年に富山県立近代美術館で開催された「富山の美術・86」展で展示され、購入、収蔵されたものです。

ところが展覧会終了後、県会議員による県議会での批判がマスコミに報道され、右翼団体や神社関係者の圧力の末、作品の売却と図録残部の焼却処分が決定されたものです。この「事件」では大浦氏や市民による住民訴訟が提起され、一審で一部勝訴したものの、控訴審で敗訴し、上告は棄却されました。一旦は収蔵された作品が、天皇を揶揄する作品だという攻撃にも屈し、司法もこれに追随したことで表現の自由は囚われてしまったのです。

安世鴻氏の「重々」消せない痕跡 アジアの日本軍性奴隷被害の女性たち」についても、同じような経過をたどっています。2012年6月、新宿ニコンサロンでの写真展「重々」中国に残された朝鮮人元日本軍「慰安婦」の女性たち」が中止されています。中止の理由としてニコン側は「諸般の事情」とし、9月に予定されていた大阪ニコンサロンでの展示のキャンセルも

一方的に告げられています。この「諸般の事情」とは、例によって「個々の中身は言えませんが、抗議の電話、メールがかかりあつた」という類末でした。実際、ニコン本社前で「主権回復を目指す会」が「祝！安世鴻写真展中止！写真展中止は国益に適った判断」との横断幕を掲げたとか。ネットの掲示板でも、「売国行為をやめよう」「ニコンに不買運動すべき」「抗議電話して売国行為やめさせよう」など既視感のある煽動が行われています。

大浦氏や安氏の作品が攻撃を受けてた同時代、抗議の呼びかけに応じていくばくかの声をあげましたが、熾烈な攻撃には計り知れないものがあります。安氏に対しては家族の身の安全まで脅かされています。このやり口は常套手段のように、その後

の植村隆氏への攻撃でも繰り返されています。この「事件」も裁判が提起され、2015年末にニコンの不法行為認定によって安氏は勝利を手に入れています。ちなみに、安氏は「重々」という言葉について次のような思いを記しています。「ハルモニたちの幾重にも深く刻まれた皺に、70余年の間幾重にも重なりあつた憤りがしこりとなり、こびりついた胸の奥

を垣間見ました。全ての事が過去から現在に至るまで重なり合つて、解くことのできない『恨（ハン）』となり、私たちに迫ってきました。今、私たちの小さな力を出し合い、互いに重ね合わせる時、大きな声を出すことができます。そのような意味を込め、多くの人々が参加するほど『重々』はさらに大きく成長することでしょう」

「日本軍慰安婦問題解決のための定期水曜集会」千回を記念して建てられて以来、長きにわたる日本への謝罪と補償を求める運動のシンボルであり続けてきた。私が訪れた日も、かたわらで若者たちがテントを張って像を守っていた」

「日本軍の『慰安婦』制度の被害者を象つたこの少女像の細部に、二人の彫刻家はさまざまな意味を込めた。少女は椅子に座り何かを待っている。『日本政府の反省と悔い改め、法的賠償を待っている』のだという。少女から伸びるハルモニ（おばあさん）の形をした影は『謝罪反省を一度も受けないまま過ぎた

『日本軍慰安婦問題解決のための定期水曜集会』千回を記念して建てられて以来、長きにわたる日本への謝罪と補償を求める運動のシンボルであり続けてきた。私が訪れた日も、かたわらで若者たちがテントを張って像を守っていた」

「日本軍の『慰安婦』制度の被害者を象つたこの少女像の細部に、二人の彫刻家はさまざまな意味を込めた。少女は椅子に座り何かを待っている。『日本政府の反省と悔い改め、法的賠償を待っている』のだという。少女から伸びるハルモニ（おばあさん）の形をした影は『謝罪反省を一度も受けないまま過ぎた

「はじめてソウルの日本大使館前で少女像をみたとき、日本の報道を通してのみ接していたからか、小柄なその姿に驚いたおぼえがある。正式名称を『平和の碑』というこのプロンズ像の高さは百二十センチほどしかない。だがこの小柄な像は、一一年十二月十四日に

「はじめてソウルの日本大使館前で少女像をみたとき、日本の報道を通してのみ接していたからか、小柄なその姿に驚いたおぼえがある。正式名称を『平和の碑』というこのプロンズ像の高さは百二十センチほどしかない。だがこの小柄な像は、一一年十二月十四日に

「はじめてソウルの日本大使館前で少女像をみたとき、日本の報道を通してのみ接していたからか、小柄なその姿に驚いたおぼえがある。正式名称を『平和の碑』というこのプロンズ像の高さは百二十センチほどしかない。だがこの小柄な像は、一一年十二月十四日に

「はじめてソウルの日本大使館前で少女像をみたとき、日本の報道を通してのみ接していたからか、小柄なその姿に驚いたおぼえがある。正式名称を『平和の碑』というこのプロンズ像の高さは百二十センチほどしかない。だがこの小柄な像は、一一年十二月十四日に

「はじめてソウルの日本大使館前で少女像をみたとき、日本の報道を通してのみ接していたからか、小柄なその姿に驚いたおぼえがある。正式名称を『平和の碑』というこのプロンズ像の高さは百二十センチほどしかない。だがこの小柄な像は、一一年十二月十四日に

「はじめてソウルの日本大使館前で少女像をみたとき、日本の報道を通してのみ接していたからか、小柄なその姿に驚いたおぼえがある。正式名称を『平和の碑』というこのプロンズ像の高さは百二十センチほどしかない。だがこの小柄な像は、一一年十二月十四日に

「はじめてソウルの日本大使館前で少女像をみたとき、日本の報道を通してのみ接していたからか、小柄なその姿に驚いたおぼえがある。正式名称を『平和の碑』というこのプロンズ像の高さは百二十センチほどしかない。だがこの小柄な像は、一一年十二月十四日に

『ドキュメンタリー映画 WENDE 光と水のエネルギー』

■ドキュメンタリー映画『WENDE 光と水のエネルギー』

世界のエネルギー政策は、原発や化石燃料由来のエネルギーから再生可能エネルギーへと大きく転換しようとしています。この流れを独語で「WENDE（大改革）」という。再生可能エネルギーの創生・普及に向かう住民主体の取組みに焦点をあて、

域住民が主体になり、地域の資源を活かし、地域の経済を活性化することです。外部資本や輸入パイオや乱開発型の動きは地域住民には受け容れられません。（紹介資料参照）

材したドキュメンタリー。2014年に関西電力大飯原発の運転差止めを命じた判決を下した福井地裁の樋口英明裁判長は、もともと「脱原発派」ではなかった。彼が問題にしたのは、危険この上ない原発なのに安全性が不確かなこと。誰もが「絶対安全」と立証できないこと。「ゆえに原発稼働は到底認められない」となる。当然の理屈だ。

さらに東海第二原発に運転差止め命じた水戸地裁判決（前田英子裁判長）もまた画期的であった。それは「実効性ある避難計画が無い、ゆえに運転を認

原子力発電の危険性を伝える活動を続ける元裁判長と、放射線被災で諦めた農業を太陽光発電（ソーラーシェアリング）によって蘇らせる福島の人々を取

原子力発電の危険性を伝える活動を続ける元裁判長と、放射線被災で諦めた農業を太陽光発電（ソーラーシェアリング）によって蘇らせる福島の人々を取

原子力発電の危険性を伝える活動を続ける元裁判長と、放射線被災で諦めた農業を太陽光発電（ソーラーシェアリング）によって蘇らせる福島の人々を取

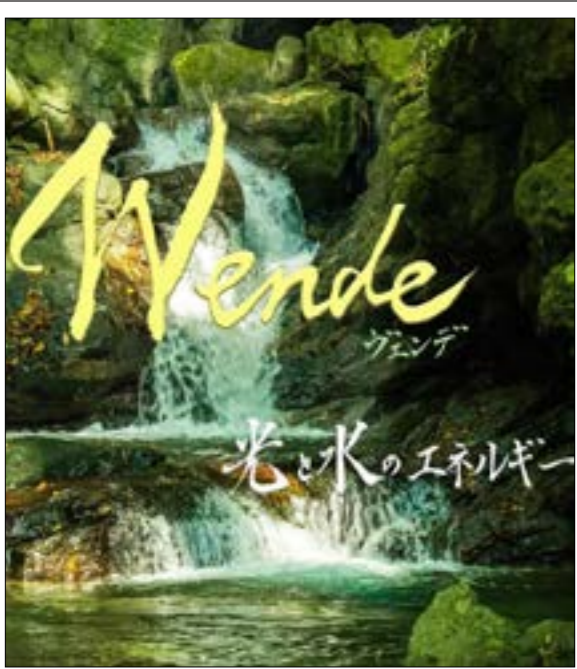
原子力発電の危険性を伝える活動を続ける元裁判長と、放射線被災で諦めた農業を太陽光発電（ソーラーシェアリング）によって蘇らせる福島の人々を取

原子力発電の危険性を伝える活動を続ける元裁判長と、放射線被災で諦めた農業を太陽光発電（ソーラーシェアリング）によって蘇らせる福島の人々を取

原子力発電の危険性を伝える活動を続ける元裁判長と、放射線被災で諦めた農業を太陽光発電（ソーラーシェアリング）によって蘇らせる福島の人々を取

原子力発電の危険性を伝える活動を続ける元裁判長と、放射線被災で諦めた農業を太陽光発電（ソーラーシェアリング）によって蘇らせる福島の人々を取

原子力発電の危険性を伝える活動を続ける元裁判長と、放射線被災で諦めた農業を太陽光発電（ソーラーシェアリング）によって蘇らせる福島の人々を取



歳月の、ハルモニたちの恨が凝り固まった時間の影』を意味する。肩には平和と自由の象徴である小鳥がとまり、かかとがすり切れたはだしの足は険しかつた人生をあらわし、はじめはただ重ねられていた手は、像の設置を妨害しようとする日本政府に備えてぎゅつと握りしめられた」（東京新聞）

平和の少女像は世界へと広がり、「日本軍性奴隷」という歴史の制約を超えて戦争で（攻撃の対象となり）犠牲となった女性を象徴する平和の像として世界に広がっています。日本政府や過去の歴史的事実を受け入れられない人々の悪あがきが、その意図に反してこの像を平和の使者へと押し上げているようです。

平和の少女像は世界へと広がり、「日本軍性奴隷」という歴史の制約を超えて戦争で（攻撃の対象となり）犠牲となった女性を象徴する平和の像として世界に広がっています。日本政府や過去の歴史的事実を受け入れられない人々の悪あがきが、その意図に反してこの像を平和の使者へと押し上げているようです。

私はこの像の制作者、キム夫妻のアトリエを訪れ話を伺っています。それはフィールドワークの一員として2017年11月25日〜27日、初めて韓国に出かけたときでした。現地集合に始まり現地解散で終わるこのフィールドワーク、帰国の飛行機が遅くなって28日の1番電車を大阪駅で待つというサバイバルな旅行でしたが、数々の貴重な経験ができた韓国旅行でした。

それはこの像の制作者、キム夫妻のアトリエを訪れ話を伺っています。それはフィールドワークの一員として2017年11月25日〜27日、初めて韓国に出かけたときでした。現地集合に始まり現地解散で終わるこのフィールドワーク、帰国の飛行機が遅くなって28日の1番電車を大阪駅で待つというサバイバルな旅行でしたが、数々の貴重な経験ができた韓国旅行でした。

それはこの像の制作者、キム夫妻のアトリエを訪れ話を伺っています。それはフィールドワークの一員として2017年11月25日〜27日、初めて韓国に出かけたときでした。現地集合に始まり現地解散で終わるこのフィールドワーク、帰国の飛行機が遅くなって28日の1番電車を大阪駅で待つというサバイバルな旅行でしたが、数々の貴重な経験ができた韓国旅行でした。

チーム医療を支えよう

●健康診断で

今年の特定健診を受けたクリニックの医師から「便潜血反応が陽性に出たので精密検査が必要です」と告げられ、大腸内視鏡検査のできる近くの胃腸科クリニックを紹介してもらった。さあ、ここから様々な職種の医療スタッフのお世話になることになった。

●専門病院を受診

専門病院の下部消化管外科を受診し、紹介状と病理診断結果、内視鏡の画像データを見てもらった結果、手術が必要で約一週間後に入院することが決まった。医師はベテランのようで「まあ、見つかって良かったと考えてください」と言ってくれた。

●内視鏡検査

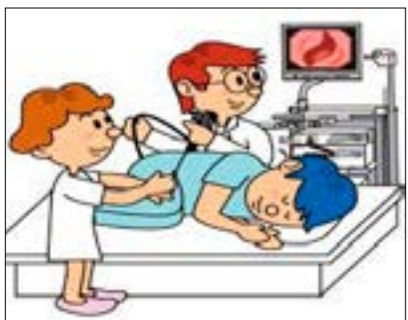
大腸内視鏡検査は二、三年に一度受けるようになっており、前回は大腸ポリープの他は特に異常は見つからなかった。自分も一緒に画面を見ていたので確かにそうだったと思う。しかし今回は、医師から「悪性を疑う腫瘍が見られます。病理診断の結果が出たら紹介状を書きますが、希望の病院はありますか？」と言われ、迷わず消化器科では定評のある都内の公的病院をお願いした。

●手術前の検査

ここからは診療放射線技師と臨床検査技師の出番である。まず診療放射線技師のもとで、胸部と腹部のレントゲン検査、造影剤によるCT検査が行われた。臨床検査技師が様々な部署で、採血、検尿、心電図、踏み台昇

（入院体験記）

悪性を疑う腫瘍が見られます。病理診断の結果が出たら紹介状を書きますが、希望の病院はありますか？」と言われ、迷わず消化器科では定評のある都内の公的病院をお願いした。



どうも許せない!

10月3日にツイッターで沖縄の米軍基地建設に対する座り込み抗議への冷淡な態度を非難する声が続出した。その冷笑的な態度を非難する声が続出した。3日、ツイッターに「新基地断念まで座り込み抗議 不屈 3011日」と書かれた看板の隣で、満面の笑みを浮かべてピースする自身の写真をアップ。そして「座り込み抗議が誰も居なかつたので、0日にした方がよくない?」とツイートをしまし

た。しかし、「人間のなかに、人間の苦しさと血の滲むような闘いを侮辱して、一欠片の想像力もなく嘲笑することのできる者がいるのだ、という驚きを改めていだく」「悔しくて涙が出る。ここに座り込み続ける人たちが嘲笑うようなことがなぜできるのか」と怒りの声も上がっています。

「護国市辺野古の米軍新基地建設に反対する座り込みの抗議行動は、2014年7月にスター

ひろゆきさんによる辺野古新基地建設反対の座り込み行動への冷淡な態度



「事実陳列罪で怒られました」とだけ綴りました。

ひろゆきさんの発言を聞いて思い浮かんだのは、中島みゆきさんの「フアイト」という歌です。

「フアイト! 闘う君の唄を聞かない奴等が笑うだろう」

「乗型資本主義」と言った、「この批判においてはまだ十分です」「IOCは、いわば植民地経済のように収奪的仕組みのものでしか、オリンピックを開催できないのです」

実際に手厳しい批判ですが、翻ってみれば五輪競技者はメダルを、それも金メダルを取ることを強制されてその肉体を酷使し、その頂点に立てない数多くの競技者を使いつぶしているのではないのでしょうか。先ごろ行われたドラフト会議で指名された選手とそうでない選手もまた、...

スポーツと暴力の親和性はつとに指摘されていますが、それは肉体を収奪するという本質のなかに証明されているのではないのでしょうか。優劣や勝敗とは離れたところで、スポーツが語られるようになるためには、五輪の消滅が不可欠ではないかと思う今日この頃です。

(晴)

復まで繊維の多い食材や油物避けるよう、一覧表を渡されて説明をうけた。

チーム医療に支えられ

振り返ってみると、実に多種多様な医療スタッフのチーム医療に支えられていたことを実感する。看護補助者、調理スタッフ、リネンスタッフ、清掃スタッフの支えも忘れてはならない。今後の通院医療においても、これらの様々なスタッフのチーム医療にお世話になることになるのだろうと思う。

(冬彦)



歩行のリハビリ

手術後の合併症として、腸の蠕動運動がマヒし腸閉塞を起こさないようにとにかく歩行のリハビリを励行された。最初は腹部の痛みが残るため、直立歩行が難しく、我ながら人類進化の凶鑑を見た「ピテカントロプス」

病棟看護師

「腹腔鏡手術」といって腹部に数カ所の穴を開けて行うので「開腹手術」の傷ほどではないが、やはり痛みは残る。また麻酔の影響で、排尿機能障害や腸の蠕動運動マヒも起こってくる。ここからは、病棟の看護師の皆さんに全面的にお世話になった。何しろ術後の痛みや麻酔による症状に対応しながら、同時に「離床」そしてリハビリの「歩行練習」まで誘導していくのだから、かなりの看護技術を要することだ。

昼夜交替で、複数の看護師達が入れ替わり立ち替わり、看護にきてくれるのだが、連携が良く

栄養指導

おかげで食事も、点滴補液から流動食、五分粥、全粥と進み、退院の目処も立った。退院後の食事指導のため、管理栄養士による栄養相談を受け、腸の回

薬剤師等が事前説明

手術前の説明として、薬剤師の服薬チェック、病棟看護師の入院スケジュール説明、手術室看護師の説明、麻酔科医の説明、医療相談員による医療費等の説明、輸血同意書の説明、手術担当医師の説明と、入れ替わり立ち替わり説明に訪れた。

もう頭が一杯である。ベッドの上で、それぞれのマニュアルを読み返し、明日の「予習」で前夜を過ごした。

手術当日

朝「予習」を思い出しながら手術着に着替え、看護師の案内でエレベーターに乗り、手術室に着いた。手術スタッフが「昨夜は眠れましたか?」と笑顔で迎えてくれた。まず背中に痛み止めの「硬膜外麻酔」の針を、腕には「全身麻酔」点滴の針を挿入した。

マニュアルでは、麻酔のかかる時と、麻酔から覚める時「○○さん」と呼びかけるので返事をすることになっていたのだが、手術室の丸いライトを眺めているうち、全く記憶がないままだった。

トしました。日時を決めて行い、今年9月22日に3000日を迎えたばかり。参加者には『基地建設を止めるまで抗議し続ける』と話す人もいます。(全国紙記者) 沖縄県は国土面積の約0.6%。しかし、全国の米軍専用施設面積の約7割が集まっています。「米軍基地がある影響で、沖縄の人たちはこれまで多くの「苦しみ」を抱えてきました。

例えば1995年、米兵の少女暴行事件がありました。また戦闘機や軍用ヘリコプターの墜落事故も発生しています。基地が辺野古に作られることで、ジュゴンなどの生き物にも影響が出るとされており、沖縄を愛する熱い思いから抗議は行われています。

東京オリ・パラ組織委員会は解散したが...

6月30日、東京オリンピック・パラリンピックの準備や運営を担ってきた大会組織委員会が解散しました。その招致が決定されたのは2013年9月、今は亡き安倍首相が福島原発の汚染水はブロックされているというウソで始まったこのスポーツの祭典は、あらゆる不祥事とコロナ感染を押し切つて開催されました。

組織委解散にあたって、橋本会長は「大会の意義と価値を後世にどのように残していくかを考えながら乗り越えてきていただいた。

日余り抗議を続けてきた多くの方々に対する敬意は感じられない。残念だ」とコメント。そして「投稿は見識の違いだと理解している。ただ投稿に対する波及は、日頃ネットメディアを使っている方なら十分考えられたのではないか」と語りました。しかし、ひろゆきさんはツイッターで玉城知事のニュースを引用し、

「事後陳列罪で怒られました」とだけ綴りました。

ひろゆきさんの発言を聞いて思い浮かんだのは、中島みゆきさんの「フアイト」という歌です。

「乗型資本主義」と言った、「この批判においてはまだ十分です」「IOCは、いわば植民地経済のように収奪的仕組みのものでしか、オリンピックを開催できないのです」

実際に手厳しい批判ですが、翻ってみれば五輪競技者はメダルを、それも金メダルを取ることを強制されてその肉体を酷使し、その頂点に立てない数多くの競技者を使いつぶしているのではないのでしょうか。先ごろ行われたドラフト会議で指名された選手とそうでない選手もまた、...

スポーツと暴力の親和性はつとに指摘されていますが、それは肉体を収奪するという本質のなかに証明されているのではないのでしょうか。優劣や勝敗とは離れたところで、スポーツが語られるようになるためには、五輪の消滅が不可欠ではないかと思う今日この頃です。

(晴)

コラムの窓...



図は「週刊金曜日」編集部が作成

「長野市がオリンピックのため借り入れた額は利息を含めて69.4億円。その負債を返済し終えたのは20年後の2018年度です」「本来は高齢者福祉、除雪対策、災害対策に使われるべき税金が、オリンピックのために奪われ続けたのです」

山本教授はさらに、このスポーツの祭典そのものがスポーツ文化を略奪し続けていると総括しています。ジュールズ・ポイコフ氏が「祝賀資本主義」と言い、

世襲へと我が子を秘書へ岸田さん
避難民前ウクライナ今ロシア
バレルまでカルトの記憶消すハッジ
毒舌の円楽最後まで高座

野菜高もやしを活かす老いの知恵
イマジンの願い叶わぬウクライナ(叶う)
夢無限ロボコン技を競い合い(リモート)
千羽鶴非核を告げて舞う葉月(告げる)

大海をゴミ箱にする汚染水(箱)
気候危機百葉箱に赤ランプ(箱)
逃亡を助けた箱もありました(箱)
抜け道に違う違うとナビの声(笑いのある川柳)

温暖化コスト重視に病む地球(暑い)
カネとなる紙へ日銀輪転機(転)
反戦へイマジン響く駅ピアノ(ナイス)
晩学の趣味に輝く日日新た(ナイス)

宗教の選挙支援にある旨み(そうかもね)
ジエンダーに日本の歩む亀の足(やきもき)
晩学が未知の扉をノックする(ときめく)
除染され稲穂も矜持取り戻す(稲)

金まみれ五輪にほしいガラス張り(ガラス)
青い海泣かせるプラとガラス片(ガラス)
白髪も若く生きよという鏡(ガラス)



訂正

「ワーカーズ635号訂正」

ワーカーズ635号の一面記事で誤りがありました。訂正してお詫び申し上げます。

誤記 表題「失策追求」↓正 「失策追及」

岩上容疑者 ↓正 山上容疑者

いのち見つめて～水俣と三池、そして福島～

色鉛筆

1963年11月9日の三池炭鉱爆発事故で、CO中毒を生じた当時20〜30代の炭鉱労働者たちは、事故から50数年後の現在、70〜80代で生存されています。

追及するため、審査請求を行い闘いを続けられました。10月15日に私が参加した集まりは、表題にあるように企業が起こした大惨事による被害者たちの連帯を、現代につなげていく大切な作業の一環としての「集い」です。

今回、新作「いのち見つめてー高次脳機能障害と現代社会」の映画上映が行われました。そこには当事者と家族が登場、日々の暮らしを紹介し、同時に日常が一変した被害直後の心理的なショックも映像が写しだしています。

具体的にどのようにして当事者を支え、家族であり介助者としての不安、悩み、を克服していったのか、教訓化していく大切な試みが笑顔となって参加者に紹介します。簡潔に言うと、障がいとは自己責任ではなく、「社会でつくれた問題」という指摘です。だから、社会全体で取り組み、社会問題としての認識を持ち、社会を変えていくことが求められていること。例えば、エスカレーターは、当初、障がい段階が昇りづら



(恵)